

## 澄懷堂書畫目錄

前農林大臣山本悌二郎氏多年政界に馳驅するの傍、懷を支那名賢の書畫に澄まし、其の收儲の多きこと海内其の比を見ること稀なるは已に定評の存するところである。而して今自ら筆を授つて澄懷堂書畫目錄一部を編し、收藏の名蹟一千百七十六件に就いて、各、圖様、印記、法量より作家の傳歴、先賢の文獻に互り一々細記せるもの本書である。收むるところ燉煌出土の斷簡より明清書畫に至るまで歴代の名蹟に及び、是れを年次を逐ひ、系統に従ひて解説せるところ、一部の書畫史の觀がある。加ふるに卷頭、堂主の『鑑賞適言』一篇を添へ、蒐集鑑賞に關する難件を綴り、また土屋久泰氏の『詩の沿革概説』滑川達氏の『書法沿革略説』『書法沿革略説』の諸篇を併せ收めて、一般閱讀者の豫備知識に資し、本文と相應じて書畫沿革史的體様を完うしてゐる。無論書畫の品鑑は所詮各個人の所見に歸するもので、斯く千百餘件に及べる多數の書畫に就いては、堂主の鑑して正蹟とせるもの、必ずしも悉く我々の贊意を表するものでないかも知れないが、この問題は彼土先賢の著録に於ても同様である。我々はたゞ此の種の鑑賞録の此の土に於て殆んど試みられなかつたことを思うて、本書の記録的價値を重視すると共に、已に『宋元明清書畫名賢詳傳』を著録せる堂主によつて、此の一本の公にされたことを喜ばなければならぬ。(田中)

一套十二冊 昭和七年三月 文求堂發行 定價二十五圓。

## 肉筆浮世繪選集

昭和三年六月、報知新聞社の主催による名作浮世繪展覽會に出陳された肉筆浮世繪を收載したものである。圖錄の發行としてはやゝ時を隔てゝはゐるが、同展覽會の記憶はまだ一般に鮮かである。僅かに一日しか出陳されなかつた彦根屏風の展覽のために我々は人垣を作つてその順を待つた。

この圖集はその時に出版された肉筆浮世繪の大部分を網羅してゐる。その展覽會があれ程の名品を一堂に集め得た稀有な催しであつたやうに、この圖錄も名の通り、單なる展觀圖錄以上の、慶長寛永頃から明治時代に至るまでの立派な肉筆浮世繪選集である。圖版と裝幀も之に適つて堂々と作られてゐる。唯その印刷は、或は用紙のせい、多少黒すぎるのと、時にやゝ鮮明を缺くものがあるのは、遺憾ながら十全の出來榮えとは云へない。

解説には浮世繪研究家として最も知られてゐる二氏、藤懸靜也氏の「肉筆浮世繪概観」と、田中喜作氏の圖版所載「畫人傳略」とが收められて、この種の圖錄としては行届いた懇切な編輯である。兩氏共に記述の簡明を旨とされてゐる。而して藤懸氏の概説が主として初期肉筆浮世繪に重きを置かれたのは、展覽會の主旨と、從つて收載圖版の數とに基いて當然な事であり、よく要を盡されてゐるが、なほ菱川、懷月堂、鳥居、勝川の諸流派を併せ説かれた後に、相當の數を圖版に收めてある喜多川以下の諸派についても一言を加へられたならば、初學者にとつて更に親切ではなかつたかと思ふ。

田中氏の畫人傳も亦明確な記述であつて、各畫家を知るためのよき手懸りを示されたものである。唯參照されてゐる圖版の番號と圖數とが、目次及び圖版のそれらに一致しないものが相當あるのは、恐らく編輯者の不注意であつて、氏自身最も遺憾としてゐられる處であらう。(渡邊)

四六四倍版、コロタイプ一六七圖、昭和七年四月廿五日、巧藝社發行 定價十五圓

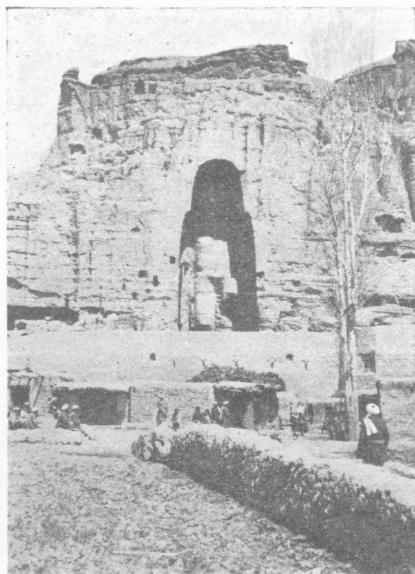
## 美術研究所時報

○美術懇話會は六月二十五日午後一時より美術研究所に於て例會を開催し、主として會員の收藏に係る西洋近代名畫家の作品展覽をなし、矢代幸雄氏の陳列品に就ての講話があつた。出席會員及同伴者は八十五名。

陳列品は主としてフランス派のものであつて、セザンヌ、ルノアール、モネ、ピサロ、ヴァン・ゴッグ、ゴーギャン、ピカソ等の作品の外イギリスのクラウ

ゼン、ロシアのレピンをも加へ總て三十九點を數へた。いづれも名質に於て選擇されたものであり、未だ公開されなかつた尤品もあつて、近年見難き好展觀であつた。美術研究所では翌二十六日より二十八日まで之を公開して西洋近代繪畫展覽會を開いたが、會期を通じて觀覽總人員は四千二百人を超えた。なほ本誌第九號を西洋近代繪畫圖錄特輯號として發行する豫定である。

○所員尾高鮮之助君の五月二十二日附の書信によれば、旅程も豫定通りに進捗し、印度のベンヤワルからカイバールパスの險を越えて、四月二十五日アフガニスタンの首都カブールに着き、同二十八日早朝カブールを出發し、積雪尙峠を埋むる山路百八十哩を自動車にて馳驅し同夜佛蹟として名高きバミヤンに到達し同地の遺蹟を調査見學した由、茲に收載の寫眞はバミヤン石彫の隨一で高さ五十三米の大佛とその附近の光景の一部で、同君の撮影にかゝるものである。バミヤンの溪谷は海拔八千五百呎もあり、その行程の難は云ふまでもないが、アフガニスタンの入國すら容易のことでないで、これまで我國の美術研究者にとつては全く未踏の地であつたから、我學界に於てアフガニスタンの踏査は同君のこの行をもつて初まると云ふべきである。尙同君は續いてハツダの遺蹟をも調査した由、其等の



詳細なる調査報告はいづれ同君歸朝後、本誌に發表される筈である。

## 寄贈新刊圖書

日本國寶全集 四九、五〇 文部省編

古九谷 第一輯 倉橋藤治郎、青山二郎編

新興獨逸建築作品集 建築學會、日獨文化協會編

第十一回南畫展圖錄 日本南畫院編

Stephen Richarz: The Age of the Human Race in the Light of Geology.

(Publication of the Smithsonian Institution 3097)

Smithsonian Institution.

J. R. Swanton & F. H. H. Roberts, Jr.: Jesse Walter Fewkes.

(Publication 3105)

W. F. Badé: The Tell En-Nasbeh Excavations of 1929. A Preliminary

Report. (Publication 3099)

George Grant Macurdy: Recent Progress in the Field of Old World

Prehistory. (Publication 3100)

Walter Hough: Ancient Seating Furniture in the Collections of the

United States National Museum. (Publication 3101)

Herbert W. Krieger: Aspects of Aboriginal Decorative Art in America

based on Specimens in the United States National Museum. (Publication 3102)

朝鮮と建築

建築雜誌 五五八

帝國工藝 六〇六

史迹と美術 二〇

寫眞月報 三七〇七

Bulletin of the Metropolitan Museum of Art, Vol. XXVII, No. 6

Bulletin of the Museum of Fine Arts, Boston, Vol. XXX, No. 179

Economic Review of the Soviet Union, VII, No. 10, 11